



那須御用邸でヤマドリを放鳥される天皇、皇后両陛下

御製  
お題「町」  
我が國の  
旅重ねきて  
思ふかな  
年経る毎に  
町はどどりふ。

次	
大御心にふれて―皇馬勤勞奉仕―	
栃木県神社庁教化委員長	：
中曇 輝美	1
対談	
神社と癒しⅡ	
栃木県楽評論家・作詞家	
湯川れい子	
神信心とお母さん	
日光光鹿島神社子	
喜運川神社宮司	
日光二荒山神社氏子	
黒羽八雲神社氏子	
佐野寺斎藤明子代	
小野寺育美子	
氏家今宮神社氏子	
森高典子	
昌子	
総氏神さま	
栃木県神社庁教化副委員長	
小堀 修一	
心こそ神への近道	
栃木県神社総代連合会	
会長 塚本美代次	
鎮守さまと私とホタル	
雄琴神社氏子	
宮田 次男	
比企理恵さん参拝	
神棚のまつり方	
占いとまじない	
栃木県埋蔵文化財センター	
篠原 佑一	
神の使い―クロウ―	
鷺子山上神社宮司	
長倉 樹	
編集後記	
小堀 修一	
■表紙題字	
日光二荒山神社	
元名譽宮司 喜田川 清香	

# 大御心にふれて

## — 皇居勤労奉仕 —



栃木県神社庁

教化委員長 中 麟 輝 美

(一)

本委員会の事業として「皇室敬慕の念の喚起醸成」を計る目的で、毎年行っている那須御用邸清掃奉仕が、本年も五月十六日、神政連青年隊、青年神職むすび会、氏子青年連合会合同で実施された。回を重ねる毎に、評判を呼んで参加者も年々増加し、皆それぞれに深い感銘をうけている。これも御用邸を擁する我が栃木県の特権といえるものであろう。そこでその延長として皇居勤労奉仕ができたらと

考えていた矢先に、芳賀支部で実施したいが教化委員会も合同でどうかとのお話をいたしたいた。早速本年度事業に組み入れ、教化委員及びむすび会々員の参加者をつくる。栃木県神社庁理事柳田芳賀支部長を団長とした総勢十八名（神職十一名・氏子関係者七名）の奉仕団が結成された。九月八日から十一日迄の三泊四日の日程にて、栃木県神社庁初の皇居勤労奉仕が実現した。

(二)

九月八日午前四時、バスにて宇都宮二荒山神社を出発、太前神社を経由して午前七時半頃皇居前広場に到着。奉仕作業のできる身仕度に整え、桔梗門より皇居内に参入、窓明館<sup>そうめいかん</sup>という三百名以上収容できると思われる参集所にて休憩待機し、宮内庁担当者の指示を待つた。奉仕団の受け入れは月曜・木曜と火曜・金



皇居桔梗門入口の辺を背景に



皇居伏見櫓を背景に

曜とのことで月曜からは四団体で約一五〇名位であった。午前九時宮内庁担当者より説明及び諸注意があり、各団体毎に整列し、富士見櫓を右に見上げながら宮内庁、新宮殿へと進む。二重橋を渡り伏見櫓を背景に、各団毎の記念撮影が行われ、各奉仕区域に移動した。当奉仕団は新宮殿の南庭とのことで、宮内庁担当職員の案内により予想もしていなかった庭園内に入り、宮殿各所の説明をうけ、芝生の清掃及び土手側の草刈りを奉仕することができ、一同感激のうちに初日の奉仕を終了した。

### (II)

二日目は炎天下の奉仕となり、宮内庁担当職員の気遣いをうけながら整列し皇居内宮内庁前へと進むと、白衣白袴の掌典職関係職員の出迎えをうけた。もしakashitaraの直感が当り、宮中二

殿おそば近くの奉仕となつた。案内説明をうけながら参入し、畏くも拝礼をする機会を得、秋季靈祭間近とのことで門及び廻廊の水ぶき等の奉仕をし、休憩していると担当者が「今日は良いことがあるかも知れません」とのこと。意味のみこめなかつたが、皆が期待していることであるとすぐに理解することができた。午前十一時宮内庁脇の蓮池参集所に集合し、各団毎に整列し細々と説明をうけ、その時を待つ。やがて御車が到着し、最初に皇后陛下次に紀宮殿下そして天皇陛下が降りられ、各团长の前にお進みになられた。各团长は、県名・奉仕団名・人員を申し上げると、各地の近況のお尋ねやねぎらいのおことばをいただき、一同「大御心」にふれて感極まり涙ぐむ者もあり、感激のうちに万歳三唱が声高らかに響きわたった。その感激も

さめやらぬ中午後も宮中二殿おそば近くの奉仕となり皆日々に生涯忘れられない一日であつたと、感銘ひとしおのうちに一日目を終了した。

#### (四)

二日目は赤坂御用地の奉仕となり、担当者の案内説明により見学と記念撮影をし、各奉仕区域に移動した。当奉仕団は東宮御所車寄せ付近の草刈りを奉仕していると、午前十一時に集合するよう告げられた。七団体約一五〇名が東宮御所玄関脇より大広間に入り待機していると、皇太子殿下同妃殿下がお入りになられ、各団長の前にお進みになり、各地の近況のお尋ねやねぎらいのおことばをいただき、御慈愛溢れるお姿を目前にして、やはり感極まり涙ぐむ者もあり、深い感动のうちに万歳三唱の声が高らかに響きわたった。

#### (五)

最終日は再び皇居内の奉仕となつた。今も江戸城の面影を残した東御苑に入り、担当者の案内説明をうけながら本丸跡、松の廊下跡、天守閣跡を見学、炎天下の為気遣いを受けながら各都道府県の木が植えられているところの草取りを奉仕し、午後二時頃代表者が宮内庁にて、御下賜の品々をいただき、思いがけない貴重な体験と、数多くの感激と感動を受けながら、勤労奉仕を無事終了した。

このたびの御奉仕において、奉仕団をいかに大切に思われているか、「大御心」に直接ふれることができ、我々日本国民は素晴らしい皇室をいただいていることを再認識し、この御奉仕をより多くの人々に体験をしていただきたいと参加者一同心より深く念じた次第であります。



赤坂御用地庭園大池を背景に

# いや 神社と癒し 対談 II

—音楽を通して—



音楽評論家・作詞家  
**湯川れい子**

栃木県神社庁教化委員長  
**中曆輝美**

## 一、はじめに

中曆 起忙しいなか、本日は栃木県神社界のためにお時間を割いていただき、真にありがとうございます。栃木県神社庁では「下野の社」という機関紙を発行して広報活動の一環としておりますが、只今特集として『神社と癒し』というテーマの元に、取材活動を行っております。

本日は、湯川れい子先生には、『音楽とこころの癒し』というテーマで、我々の目指しているところと共通しているところがたくさんあるかと存じますので、その辺を中心にお話を伺いたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

まずは、栃木県の皆さんに、簡単に自己紹介かたがた音楽との出会い、評論の原点について

お話をいただければありがたいと思います。

## 二、音楽との出会い

湯川 はい。ちょうど日本経済新聞で、『青春の道標』という連載エッセイをさせていただきおりまして、つい先週くらいにも書いたんですけども、私と音楽の原点とは何だろう、と考えてみますと、父が海軍の軍人で、戦争前の海軍の体質だったと思うんですけど、とてもスマートでハイカラだったんですね。私が生まれたときも、大きくなったらイブニングドレスを着て社交界にデビューする時がくるからと、種痘を腕ではなく大腿にしてくれまして。週末は母と一緒によくタンゴだとかワルツだとか、レコードをかけて、家の応接間で踊っていました。で、私は本当にまだ二歳とか四歳と

# 湯川れい子

Yukawa Reiko

[ジャンル] 音楽評論・作詞家

[出身地] 東京都

[所属] ホリプロ

[略歴]

昭和35年、ジャズ専門誌「スウィング・ジャーナル」へ投稿。その才能が認められ同年、ジャズ評論家としてデビュー。ラジオのDJ・ボップス評論、解説を手掛けるほか、講演会、テレビでの審査員、コメンテーターとしても活躍中。多数のレギュラー貢を持ち、作詞のヒットメーカーでもある。既成の概念にとらわれない自由でおおらかな彼女のの人間性といつまでも若々しいセンスが光っている作風が好評。また、真の優しさと夢を持ちづけ、ディズニー映画日本語吹き替え版日本語詞も手掛けている。

著書「幸福へのパラダイム」(海竜社)は、現在で15版目に入るベストセラーとなり、第10回日本文芸大賞ノンフィクション賞を得ている。音楽を愛し、人を愛し、家族を愛し、好きなことに素直に情熱を傾けるそのさまは、最も自然体で、現在活躍する女性の先駆者の存在として高い支持を得ている。近年は、ボランティア運動に多くの時間を割き、環境問題を考えグローバルに行動する自身の「レインボウ・ネットワーク」を組織。永久会員には、シャーリー・マクレーン、オノ・ヨーコ、オリビア・ニュートン・ジョンなどがいる。

[主な文化活動]

日本音楽著作権協会 (JASRAC) 評議員・理事

日本作詞家協会 評議員・理事

地球の友ジャパン 理事

地球環境女性連絡会 (G.E.N.K.I.) 常任委員

環境省中央環境審議会委員

環境事業団 地球環境基金NGO推進委員会委員

(財)国民休暇村 評議員

(財)水と緑の惑星保全機構 評議員

(財)化学物質評価研究機構 評議員

東京スクール・オブ・ミュージック専門学校 名誉校長

大阪スクール・オブ・ミュージック専門学校 名誉校長

福岡スクール・オブ・ミュージック専門学校 名誉校長

レインボウ・ネットワーク 代表

[主な番組出演]

NHKラジオ「ミュージック・ポックス」(火 16:05~17:00)

日本テレビ「ザ・ワイド」

[主な翻訳]

映画「美女と野獣」「アラジン」「ポカホンタス」「ターザン」

[レギュラー執筆誌]

スポーツ報知 (報知新聞)

婦人公論 (中央公論社)

月刊ELVIS (Elvis Presley Fan Club)

かそのくらいだったと思うんですけど、その父と母の間に、サンドイッチになって一緒に踊ったのが、たぶん私の原体験になつてていると思います。本当に幸せな子供時代でございました。で、戦争が激しくなって、父も海軍

での徹夜の作戦会議が続いて、結局肺炎を患って三日で亡くなつてしましました。一番目の兄は特攻隊。一番上の兄は大学を卒業してすぐ陸軍に徴兵でとられ空壕を掘つていってくれたので

ですが、三日間防空壕を掘りながら、ずっと『♪メエ～メエ～』と、陸軍将校の軍服を着て、私を抱っこして、夕方の空を見上げて、一番星が光つていまして、『あれが兄ちゃまだからね』ともきれいな曲だったのですか

と訊きましたら、『これは兄ちゃんが作った歌だよ』って言つて。それで防空壕を掘り終わつたあとその歌の合間に口笛を吹いていたのですね。それがとつて森の子やぎ』という歌を歌つて、あとの歌の合間に口笛を吹いたら、『なんていう歌なんですか』

もの心がついた頃、進駐軍のラジオ放送を聴いていたら、突然兄のあの口笛の曲が聴こえてきたのです。ものすごくびっくりしまして、『兄ちゃんが作った歌だよ』って言つてたのにどうして…紛れもなく私が聴いていたあの口笛の曲でした。それから、中学の二年くらいだったのですが、学校から飛んで帰ってくると、いつも必ずラジオをつけるのが習慣になつてしまつて。それでその曲がハリー・ジェームス樂團の『スリーピー・ラグーン』午後の入り江』っていう曲



だつて、いうこともまだなんとかつてまいりました。

**中齋** それは感動的な体験でしたね。

### 三、評論活動へのきっかけ

**湯川** そんなこともきっかけとなりまして、進駐軍のアメリカ

放送を聞くことで、どんどん聞き取れない英語を聞きながら、ボップスを聴くようになつていきました。それでやがて高校二年ごろに、今度は、本格的にアメリカ文化としてのジャズと出会つて、ジャズもロックンロー

リカ南部から生まれてきた、奴隸として連れて来られた黒人の人たちの歴史をベースにしている、ということもわかつてきて、独学で勉強するようになります。で、十九歳くらいのころに、『スイングジャーナル』というジャズの専門誌があるんですが、その読者論壇に投稿しまして、

その私の投稿にたくさんファンレターが来るようになって、それから本格的に書かないかと言われたのがきっかけで今の仕事に入りました。原点といつたら父と母が踊っていたタンゴとかワルツといった西洋音楽であり、やがて兄の口笛から出会ったジャズだったのではないかと思います。

### 四、宗教と歌と踊り

**中齋** なるほど、よくわかりました。そうですね。先生はご講演では音楽ばかりではなく、環境問題とか、いろいろなジャンルを取り上げておられますけれども、我々神社界もですね、環境問題については非常に危惧しているところがございまして、『鎮守の社を見守り仕えよ』ということで現在の活動の中心になつているわけですけれども。

先生もレインボーネットワークを組織されておりまして、これも環境問題を取り上げているというお話をしさいますが、これについて少しお話いただけますでしょうか。

**湯川** はい。世界中、ありとあらゆる国々の宗教というのは、原始宗教も含めてすべてそんなですけれど、全部歌と踊りがつきもので、昔は政治の場も、「まつりごと」といつて歌と踊りが重要な位置を占めていました。これは、私は…一言で言いますとすごく難しいのですけど、全ての大自然の、私たちの命を育んでくれているもののリズムとか、耳には聞こえないものも含めて、ハーモニーだと思うんですが、その働きを知って、使っていたからだと思うんですね。私にとつての神様っていうのは、完璧なシステムで私たちを生かしてくださいつてるこの大きな宇

宙であり、自然であるというの  
が私の考え方なのです。各国の  
音楽の歴史とか、いろいろこう…  
まがりなりにも勉強したり調べ  
たりしていきますと、非常に深  
い世界がございまして、それで  
今おっしゃいましたように、大  
自然そのものが実は音楽でもあ  
る。命のシンフォニーだと思います  
し、我々の耳に聞こえる音  
なんてたかだか一〇ベルツから  
一〇、〇〇〇ベルツの間の音で  
すけれども、それ以上の周波数  
もそれ以下の周波数も、すべて  
のありとあらゆるもののが、周波  
数・音とリズムを出しております。  
よく『ゆらぎのリズム』な  
んて言われますけれど、鋭角的  
なリズムでなくとも必ずそこに

は心地よいリズムがございまし  
て、それが私たちの心にも体に  
も働きかけております。その全  
てのそういうリズムとハーモ  
ニーがあらゆる自然の中には  
て、その中のほんの小さな周囲  
の音…一〇ベルツから一〇、〇  
〇〇ベルツの間の音のなかで、  
私たちはそれを音楽として再現  
してゐるだけに過ぎないような気  
がするんですね。そういう音楽  
を聴いて心地よいということは、  
体がそれに自然に対応して私た  
ちのホメオスタシスという、体  
の恒常性が整う。世界中の健康  
法が呼吸法に行きつくように、  
私たちは呼吸というリズムを整  
えることによって、基本的な免  
疫力までが整うのです。

的な基本リズムということです  
ね。

湯川 はい。全てが実は繋がっ  
ています、そういう心地よい  
ものというのは、音楽を聴くだ

## 五、音楽家とバランス感覚

中曽 リズムが大切だといふこ  
とですか。人間にとつての本質



じん ぐう たい ま  
**神宮大麻をおまつりしましよう**



乃木神社対談会場にて

けではなくて、自然の中に入つていった時に、その心地よいものと、『あれっ、これって変』みたいな、何がおかしいんだろ

が、私はおそらく音楽を通して、ずっと『感じる』性質というのを仕事にしてきたものですから、それでそういう自然環境にも早

うと思うと、松の木が枯れていたり、なぜここに松は枯れるんだろう、どうして皇居の松の木は枯れないのに、確かに日本の松は松食い虫がいると言われるけれども、なぜこんなに山枯れを起こしてしまったんだろう、と。松の免疫力が落ちているからじゃないだろうかとか、まあいろいろそういうことに気がつくこと

く目が向いてしまったんだと思います。

中曽 ほう、そういうものですか。

湯川 そういう意味からいいますと、例えば日本に最初に、『そんなに熱帯雨林を（木を）切らないでください』と言いましたのは、ステイシングという『ボリス』というロック・グループの歌手でした。その時はほんとに今から一十年くらい前なんですがけれど、とってもびっくりしました、『日本が熱帯雨林を買っているんですか』と言つたら『そうです』と。闇雲に伐採して、コンパネですよね、建築のあのコンクリートを流し込んで捨ててしまう、ああいう木材を非常に使つているって。或いは紙をいっぱい作つているって。世界で一番目の消費国なんです。特にコンパネなんかで使つてる量は日本が世界一ですって言わ

れて、ほんとにびっくりしたのが二十年前なんです。あとやつぱり三十年近く前…ビートルズのジョン・レノンという人がいましたが、彼がどんぐりを植えようという運動を提唱したのが一九七五年でした。どうしてどんぐりなの？とその時はわからなかつたのですけど、その頃は日本でも公園といふと常緑樹ばかり植えていて、山が杉だらけになっていたときなんんですけど、常緑樹じゃだめなんだ、って。秋には葉を落として木が自然を活性化するのだと。ジョンがもう三十年も前に提唱しておりました。そのあとマイケル・ジャクソンとかポール・マッカートニーとかいろんな音楽家が自然を守ろうという運動を提唱して、日本に呼びかけをしてくれまして。彼らがなせいいち早くそういうことに気がついたかっていうと、音楽家としての感性をもつ

て世界を歩いていて、体で感じたことだと思うんです。私も随分勉強させてもらいました。

## 六、鎮守の森の活性化

湯川 日本でも鎮守の杜の活性化を一生懸命に原田真二という歌手の方が五・六年から提唱していらっしゃいまして、私も鎮守の杜というのは日本の自然の要といふか…海の水を守るうとか、畑の農薬の濃度をもつと少なくしようとかといふと、日本の水を守ってきた水田、更にその水田に水を提供している山・森林・そして鎮守の森といふところまで行き着いていくのですね。

中齋 そんなときに鎮守の杜といふのはいつも地域の緑を守る、一番心地よい場所に、いやさかの地に存在してたつことがわかつてきますね。

湯川 はい。そこを守ることで、実は山や海も守ることができるといふ循環の拠点になるんだなあって。尚且つ最初に申し上げたように、全て「まつりごと」お祭りには歌と踊りがつきものといふのは、あらゆる機能的なりズムを整えてくれる力が音にある、リズムにある。そこで私たちが気を高めることで、みんなが活性化して、地域自体が活性化する。「まつりごと」って本来そういうお祭りだったのに「まつりごと」から音楽や踊りが除外

されて、経済だけになってしまって、政治になってしまったときに、随分汚れてしまったのかなあ、と。だから私はお祭りの大切さ、鎮守の杜の大切さについての何かこう理屈ではなく、ずっと音楽と共に体感してきたものなんです。

中齋 ありがとうございます。先生のお話を聞いて、だんだん心強くなつてしまひましたので、これからも頑張って、鎮守の杜を守ろうという活動を行つていきたいと思います。

## 七、神道の音楽

中齋 さて、神道の音楽といえば雅楽とか、祭囃子とか、神楽

歌とか、伝統的な分野がありますが、この点については、いかがでしょうか。

湯川 そうですね。私、音楽といふのは、食べ物とか、植物、花とか木とかと同じで、そこのエネルギーを吸つて、その食べ物を食べて、その人々の喜怒哀樂というものをもつて、生まれ育つているものだと思うんですね。ですから、日本には日本特有の音楽があり、イスラエルにはイスラエル特有の音楽があり、アフリカにはアフリカ特有の音楽があつて、生まれ、育つてきたものだと思うのです。ですから日本の雅楽、私は東儀秀樹さんという人が、実はロックが大好きという人でもあります。

# 神棚をわまつりしましょう

して、東儀さんを世に出すために、微力を尽くした時もございまして、私にとって音楽というのは、単に形が違うだけで、アフリカ人であれ、アメリカ人であれ、日本人であれ、同じなんですね。だから『音楽』という名前がついてるけれど、実はアメリカ人だったり日本人だったり、或いはその混血兒であつたり、と、全てが等しいものを持つておりますので、その場、その時に似合う音楽、そして非常に理解されやすいものと、理解されにくいものがあるだけの違いだというふうに思っています。

## 八、音楽における「癒し」

中曽 ありがとうございます。それから、『音楽による癒し』ということについてお伺いいたしたいと思うのですが、よろしくお願いいたします。

湯川 そうですね。よく神道についても、今日のこのご縁をいたたいた宮下富実夫さんという音楽家は、伊勢神宮とか、戸隠神社とか、あちこちで奉納音楽をしておられまして、日本のヒーリングミュージックの第一人者といわれてきた方なんですけども。今レコード店などに行きました、これはヒーリングミュージックです、みたいなコーナーがあつたりするんですね。これが癒しの音楽ですかって。それに対して、例えば、ロックなどはほんとにうるさいだけで、ああいう音楽を聞いても体や心は休まらないと。あれはヒーリング音楽ではないという分け方もされているんですけども、実は同じ神様の見方でも、西洋の一神教のように神様が絶対だ。絶対正しくて、その絶対正しい神様に、似せて人間を作ったっていう西洋的な考え方だと、絶

対のいいものと悪いものっていう区別の仕方をしてしまいます。日本のように八百万の神という自然観を持っておりますと、この地上に無駄なものって何一つない、全てのものが何らかの役割を持って、他のものに働きかけていて、それがハーモニーなんですよという自然観があります。実は音楽も、歴史的に見ていきますと無駄な音楽って全然なくて、ロックなどはずつとうるさい音楽だといわれつづけてきました。日本にビートルズが来たときも、あんな西洋乞食に武道館を貸すなどとか、散々やられてきたんです。けど、登校拒否をしていたり、家庭内暴力とかで色々苦しんでいるようなお子さんに、好きな音楽を選ばせると、ガンガンのロックを選ぶんですね。そのガンガンのロックを選んで、それを夢中になつて聴いているうちに、だんだん心が静まつてしまして、体の無駄なエネルギーがどんどんと流れていって、非常に鎮まつていって、次にはもう少しゆるやかな音楽に反応を示すようになつていく。これは実は十六世紀くらいにヨーロッパのお医者さんが、『同質の原理』ということで見つけくださいまして、うつ病の患者さんに楽しい音楽を聴かせて元気になりなさいといつても却つて自殺してしまったりする。それよりも、うつ病の患者さんに自分が聴きたい、気持ちのいい音楽を選ばせると、陰陰滅滅とした音楽を選んで聴くんですが、そこには、それでも自然のゆらぎ、リズムがあるんですね。それが、わたしたちの恒常性にちゃんと動きかけをしてくれまして、自然に自分のリズムが整つてくることで少し元気になつて、精神的にも同質のものに同調して解放されてい

く。それで少しずつ少しずつ明るい音楽を選ぶようになって、やがて治っていくのです。で、私は非常に神道的な八百万の神的な考え方で、本当は、だから無駄なものなんか何一つないんだって、だからその人にとつて、その時聴いて心地よい音楽が、実はヒーリングミュージックであり、その人にとつての必要な音楽であつて、そこには必ずリズムが、ホメオスタシスを活性化してくれるリズムがござりますから、その人にとつてその時心地よい音楽を聴けばよい、と。一番大事なのは、どんな音楽がいいとか悪いとかじゃなくて、まことに赤ちゃんのときから、まずお母さんの心臓の音を一番身近で聞く、腕の中で子守唄を歌つて聞かせてあげること。それから、小さい子にはんでんでん太鼓や笙の笛と歌われたように、リズムがあり、息吹があり、自然

の音を写した音があり、そういう音楽を聴いて自由に体を使つて広い空間で遊ぶこと。それが一番脳の活性化、右脳の活性化と身体の健康に繋がっていくのだと思っています。

中曽 とても素晴らしいお話を、しかも長時間にわたつてありがとうございました。先生の今日のご指導を今後に生かして行きたいと存じます。先生の益々のご活躍をご祈念申し上げてこの対談を閉じたいと存じます。ありがとうございました。

(平成十五年八月七日・東京乃木神社会館にて。この日は休業日であったにもかかわりませず、この対談の実現のため、会場のご提供をくださいました高山亨宮司さまを始め関係職員の皆様に衷心より厚く御礼申し上げます。)



乃木神社社頭にて 参拝の後